

「北の大地で70年 新たな時代に相応しい運動の構築に向けて」

視点

新日鐵住金室蘭労働組合 組合長(北海道生産性本部 理事)
大柄 恵司郎(おおがら・けいじろう)氏



略歴:昭和35年生まれ。53年4月新日本製鐵室蘭製鐵所入社。61年9月新日鐵室蘭労働組合執行委員(専従)、平成8年9月鉄鋼労連北海道本部事務局長(専従)、10年9月新日鉄労連常任中央執行委員(専従)、14年9月基幹労連北海道本部事務局長(専従)、18年9月新日鐵室蘭労働組合書記長(専従)、24年9月新日鐵室蘭労働組合組合長(専従)、同年11月新日鐵住金室蘭労働組合に名称が変更。現在に至る。

“ご安全に！”

私ども新日鐵住金室蘭労働組合は、昭和20(1945)年11月13日に輪西製鐵労働組合として結成し、昨年70周年を迎えることができました。

室蘭労組の歴史を振り返ると、昭和20年代は終戦直後の食糧確保と製鐵所の再建、昭和30年代は安保闘争と賃金・反合理化の激しい闘争、昭和40年代は経済の高度成長とオイルショック、そして富士・八幡の合併による新日鐵の誕生、昭和50年代は円高の進展や生産設備の休止による産業構造の転換、昭和60年代は室蘭製鐵所の存亡に関わる中期総合計画への対応と複合経営の推進、平成の時代は生き残りを賭けた経営施策の展開と組織の再編など、先輩諸兄が強い使命感と熱い情熱を持って、その時々課題を克服してきた。

直近の10年間においては、基幹労連の組織内参議院議員の誕生と悲願であった民主党政権の実現、旧新日鐵と旧住金の経営統合による新日鐵住金の誕生と新人事処遇制度の導入、さらには短期間での組合組織の統一などを果たすとともに、室蘭においては、世界No.1の特殊鋼棒線基地の確立に向けた対応や、北海製鐵労働組合との組織統合、さらには地域や職場の身近な問題・課題の改善など、組合員の生活の安心・安定に向けて日々努力してきた。

このような歴史の中で、先達は常に時代を先取りした運動を展開してきており、私が組合運動に携わって以降の主要な取り組みを紹介すると、昭和60年9月25日には組合結成40周年を機に組合の旗の色を赤から青に変えるとともに、平成7年4月には病院のプロパー職員を組織化、平成12年1月には製鐵所から分社した5社に組合を結成し、グループとしての協議体組織を設立するなど、組織の再構築を図ってきた。

今、私たちを取り巻く環境は、経済のグローバル化による競争が一段と激しくなる中で、デフレ脱却による

景気の回復や資源・エネルギー問題、TPP協定、さらには社会保障制度の抜本改革や外交・安全保障問題など課題が山積している。一方、労働組合においては、時代の変化とともに組合員の意識が多様化する中であって、存在意義をどのように高め、如何にして社会的な役割を發揮していくのが求められている。

私たち現役としては、先達がこの北の大地で脈々と築き上げてきた70年の歴史と伝統を礎に、労働組合の原点を決して忘れることなく、常に進取の気概をもって、新たな時代に相応しい運動の構築と次なる歴史の創造に邁進していくことを改めて決意し、80年に向けてその一步を踏み出した。

〈室蘭労組の歩み〉

昭和20年11月13日	輪西製鐵労働組合を結成
昭和26年4月1日	富士製鐵室蘭労働組合へ改称
昭和27年5月20日	労働組合会館竣工
昭和34年2月25日	34年春闘で7波49日に及ぶ長期ストライキを決行
昭和37年4月1日	組合員が9,739人とピークに
昭和45年9月1日	新日本製鐵室蘭労働組合へ改称
昭和60年9月25日	組合結成40周年を機に組合旗の色を赤から青へ
昭和62年2月13日	中期経営計画で「唯一の第2高炉、昭和64年度下期休止」の提案を会社から受ける
平成3年12月9日	新日鐵・三菱製鋼の合併による新会社(北海製鐵)設立により、第2高炉の存続が決定
平成7年4月1日	新日鐵室蘭総合病院の直職員を組織化
平成12年1月18日	新日鐵室蘭労組と分社5労組により「新日鐵室蘭グループ労組協議会」を結成
平成24年11月1日	新日鐵住金室蘭労働組合へ改称
平成26年8月31日	北海製鐵労働組合が新日鐵住金室蘭労組に加盟(組合員は1,400名に)
平成27年9月26日	組合結成70周年記念式典・レセプションを開催
平成27年11月13日	組合結成70周年を迎える